

令和 5 年度 第 1 回 羽島市歴史民俗資料館運営協議会（会議要旨）

日 時	令和 5 年 6 月 15 日（木）午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分
場 所	羽島市歴史民俗資料館 1 階 研修室
出席者	【運営協議会委員】出席者 6 名（欠席 1 名） 不破洋（会長）、丸山靖生（委員）、渡邊修（委員）、虫賀勇一（委員）、 武山昭見（委員）、田中純子（委員） 【羽島市】出席者 2 名 岩田睦巳（生涯学習課長）、小池佐和子（同課主査） 【事務局：羽島市歴史民俗資料館】出席者 3 名 今井田康雄（館長）、奥田千登勢（管理係長）、杉山文彦（管理係）
内 容	I. 市民協働部あいさつ II. 新委員紹介 丸山委員、渡邊委員を紹介 III. 会長あいさつ IV. 議題 1. 令和 4 年度事業報告について 資料に基づき事務局より昨年度の事業報告を説明 〈質疑・応答〉 （会 長） 令和 4 年度の「昔のくらしと道具展」について、5 校 しか来館していないが、どのように周知しているのか。 （事務局） 校長会に依頼しており、検討していただいている。 （会 長） 古文書学習会のテキストは、どのように決めているの か。 （事務局） 先生が決めたり、学習会で話し合ったりして決めてい る。 （会 長） できれば、羽島市に関する古文書を活用できるとよい。 2. 令和 5 年度事業計画について 資料に基づき事務局より今年度の事業計画を説明 〈質疑・応答〉 （会 長） マイコレクション展の内容は来年まで決まっているか。 （事務局） 公募している。年内までくらいは探していきたい。 （会 長） Facebook の活用はよいと思う。QR コードの活用もお 勧めする。参加型のワークショップという試みもよい。

	(事務局) 今年度から行っている試みである。 (会 長) 今年やってみてよかったら、来年度以降もやれるとよい。 夏休み歴史教室は、将来的に西中野渡船がなくなったらどうするのか。 (事務局) そうした可能性もあるので、新しい内容を考えていかないといけない。 (会 長) 市適応指導教室への通級児童・生徒の学習や居場所の提供とは何か。 (事務局) 資料館を不登校の児童・生徒の居場所の一つとして提供する試みである。 例えば、不登校の児童・生徒が資料館に来てゆっくり過ごしたり、レーザーディスクの映画を見たりする機会を設けることを考えている。 (会 長) 教育委員会に届けたりするのか。 (事務局) 教育委員会に話している。 (会 長) 親子で利用できたりすると良いかもしれない。どういう形で資料館を提供できるのか、やってみて考えていったらよい。 施設の修繕についてはどうか。 (事務局) 照明器具LED工事が来週から始まる。 (委員 1) 小学校の体験学習について、資料館から遠い学校はここまでどういう手段で来るのか。 (事務局) コミュニティバスを利用して来た学校がある。 コミュニティバスに乗れる人数が限られているので、ルートを分けて同じような時間に資料館に到着できるようにして来ていた。 また、名鉄竹鼻線を利用し、羽島市役所前駅から歩いて来た学校もあった。 (委員 2) 機会均等ということで、教育委員会とも協議する必要がある。 施設見学をする際に、見学する施設が近くにはない学校は、自己負担で交通機関を利用して行くしかないのでは、行く場所や機会が限定される。 コミュニティバスの運賃は機会均等という意味で、無料になると良い。 (会 長) 教育委員会に話し、無料にできないか相談してみると
--	---

	よいと思う。学校が見学する時は、コミュニティバスは無料にしてあげて欲しい。 (生涯学習課長) 今のお話は、教育委員会に伝える。 3. 今後の「映画のつどい」について 資料に基づき事務局より説明（資料は非公開） (委員1) 「映画のつどい」に来る人は、高齢者が多い。 (委員2) フィルム上映するから価値があった。 昔映画に親しんだ方が当時の雰囲気に関心する唯一の機会であった。それを求める世代はこれからどんどん減っていくという現実がある。無理して続ける価値があるかは難しい。 (会 長) 「映画のつどい」に来る世代は数値的にどうか。 (事務局) 70代が一番多い。常連の方は80代以上の方がみえていたが、事情により来られなくなってしまった。50代の人も数名みえる。 (委員3) 昔は竹鼻商店街にも2つ映画館があり、いつも満員だった。 (委員1) 今の映画館は人がいないという印象である。 (委員2) 映画館は人気がないわけではない。盛り返してきている。 (事務局) 今後映画資料館として、保存だけに特化していくのか、映写機やポスターを展示することと併せて方向性が問われる。 (会 長) つい最近まで映画の企画展を開催していたが、どのくらい来館者があったか。 (事務局) 今年は、藤まつりや竹鼻祭りがあったのでそれに合わせて入られた方が多かった。4月だけで2,000人ぐらいである。ここ最近の企画展の中では一番多い。 (会 長) 企画展を見に来る人はどういう人が多いのか。 (事務局) 50代から60代で若い頃映画が好きだったという方が結構多い。 一般市民が多くみえるかというと、そうではない。 (会 長) ノスタルジアだけに頼っていてもいけない。若い人に映画の魅力を伝えるにはどうしたら良いか考えないといけない。
--	---

	年12回上映しているのを6回に減らして上映する等上映方法を検討していかないと続かない。 (事務局) フィルム上映にこだわるかどうかの一つの問題である。フィルム上映にこだわらず、DVD上映だったらできる。 ただ、映写機で上映しているのを売りにしてきたのに、資料館でDVD上映をあえてする意味がない。 また、5年は大丈夫かもしれないが、10年後は今来ている高齢者の方が来られなくなる可能性がある。今と同じやり方をしていたら通用しなくなる。 (会長) この運営協議会だけでは決めることができないので、映画に特化した勉強会を開いてはどうか。映画に詳しい方のご意見が伺いたい。 (委員2) ポスター展等と映画上映をリンクさせていく方法等を模索していかないといけない。 (事務局) 講演会等のイベントと絡めながら上映出来たらよいと思う。 今後、いただいた意見を参考に、羽島市地域振興公社内でも費用面も含めて検討し、皆さんにご報告させていただきたいと思う。 閉会
--	---